

**製品名: MC2-R ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13697**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	34kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MC2R
別名	MC2R; ACTHR; Adrenocorticotropic hormone receptor; ACTH receptor; ACTH-R; Adrenocorticotropin receptor; Melanocortin receptor 2; MC2-R
遺伝子 ID	4158.0
SwissProt ID	Q01718
免疫原	抗血清はヒト ACTHR 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 248-297

**背景**

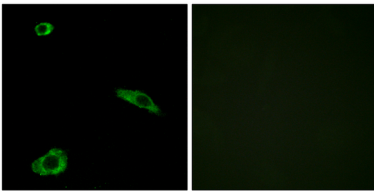
MC2Rは、5つのメンバーからなるGタンパク質関連メラノコルチン受容体ファミリーの1つをコードします。メラノコルチン（メ

メラノサイト刺激ホルモンおよび副腎皮質刺激ホルモン)は、プロオピオメラノコルチン (POMC) 由来のペプチドです。MC2Rは副腎皮質刺激ホルモンによって選択的に活性化されますが、他の4つのメラノコルチン受容体は様々なメラノコルチンリガンドを認識します。MC2Rの変異は家族性グルココルチコイド欠乏症を引き起こす可能性があります。この遺伝子には代替転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2014年5月]、疾患: MC2Rの欠陥はグルココルチコイド欠乏症1型 (GCCD1) [MIM:202200]の原因です。家族性グルココルチコイド欠乏症1型 (FGD1) としても知られています。GCCD1は、先天性の副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) 不応性または抵抗性に起因する常染色体劣性疾患です。進行性の原発性副腎機能不全を特徴とし、ミネラルコルチコイド欠乏は伴いません。機能: ACTH受容体。この受容体は、アデニル酸シクラーゼを活性化するGタンパク質 (G(s)) を介して活性化されます。類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。サブユニット: FALP/MRAPと相互作用します。組織特異性: メラノサイトおよび副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) 受容体

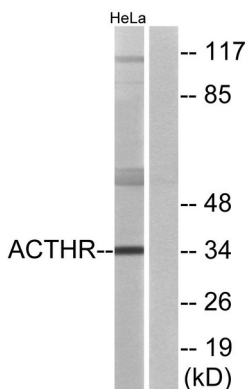
## 研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

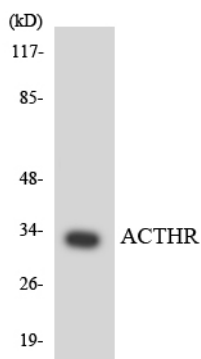
## 画像データ



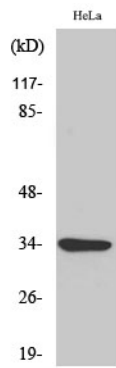
ACTHR抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



ACTHR抗体を用いたHeLa細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。



ACTHR抗体を使用したCOLO205細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



MC2-R ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析